鎌高新聞

発行　神奈川県立鎌倉高等学校　校長室
令和３年10月28日　　第６号

入試改革の先に見えるもの

神奈川県の公立高校入試は、2013年度入学者選抜から大きな変更がありました。以前の前期・後期の入試日程を一本化して共通選抜を実施し、全員に学力検査と面接を課すことになりました。また、学校独自の問題作成を行わなくなる一方、各高校の特色に応じて総合的な能力や特性をみる特色検査を実施することができるようになりました。神奈川県の特色検査には、「自己表現検査」と「実技検査」があります。本校では「自己表現検査」を課しています。特色検査は「提示された文章や資料を読み取り、中学校までに習得した知識・技能を教科横断的に活用して、問題を解決する思考力・判断力・表現力や創造力を把握するための検査」です。なぜ、公立高校入試は変更されたのでしょうか。

2021年度より新学習指導要領に基づき大学入試制度改革が実施され、大学入試も大きく変化し、今後の大学入試では、学力の三要素を評価できる入試にしようとしています。その背景には、AI(人工知能)やビックデータなど急速な技術革新やグローバル化など大きな社会の変化が背景にあります。

学力の三要素とは「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力」、「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」を指します。これは従来の知識や技能だけでなく、思考力や判断力、表現力をより一層重視した大学入試に切り替えるものです。いままでの大学入試は知識・技能を問うことに偏重していました。単に知っているだけではコンピュータやAIで十分ということになります。これからの社会で問われるのは、知識の上に、情報を分析し、そこから課題を見出し、課題を解決するための思考力・判断力・表現力を身に付けることが大切なのです。さらに、現代における諸課題は、個人レベルで解決することは難しくなり、主体性を持ちながら他人と協働する姿勢が必要なのです。それを大学入試で取り入れていこうとしています。

2021年度の大学共通テストでは、記述式問題は見直しされました。しかしながら複数の情報から事象を読み取る問題などが出題され、国立大学の２次試験では、多くの大学が記述式問題を課しました。

現在、各大学では３つのポリシーが策定されています。３つのポリシーとは「ディプロマ・ポリシー」,「カリキュラム・ポリシー」,「アドミッション・ポリシー」です。なかでもアドミッション・ポリシーは、各大学が大学・学部等の教育理念，ディプロマ・ポリシー，カリキュラム・ポリシーに基づく教育内容等を踏まえ，入学者を受け入れるための基本的な方針を示し，受け入れる学生に求める学習成果を示すものと位置づけられています。大学入試における学校推薦型選抜や総合型選抜では、各受

験生に対して大学のアドミッション・ポリシーを理解しているか、小論文や面接等で問う可能性はあります。

実は、大学入試改革は、未来の日本の課題、地球規模の課題のために実施されたといっても過言ではありません。社会は絶えず諸課題を抱え、その諸課題を解決すべく克服策を立ててきました。現在では、環境やエネルギー、食糧など、グローバルな視点で課題解決を図っていかなくてはなりません。2015 年 9 月の国連サミットで「持続可能な開発目標」(Sustainable Development Goals)すなわち SDGs が採択されたもので、当時の国連加盟 193 か国が 2016 年から 2030 年の 15 年間で達成するために掲げた目標です。この SDGs で掲げた目標こそ、現代のグルーバルの諸課題を克服するための目標といえなくもありません。日本人の 2 人のうち 1 人は SDGs を聞いたことがあるといわれます。しかし、SDGs の目標を聞かれると、なかなか目標を言える人は多くはありません。SDGs には 17 の目標と、達成のための具体的な 169 のターゲットがあります。「貧困をなくそう」「飢餓を 0 に」「質の高い教育をみんなに」「安全な水とトイレを」「エネルギーをみんなに、そしてクリーンに」などが目標となっています。これらの目標は先進国と発展途上国が一体となって掲げた目標です。2030 年まであと 9 年ですが、目標やターゲットを達成することができるのでしょうか。これらの目標やターゲットを達成するには、国や地方公共団体、企業、NPO・NGO、学校の働きかけであり、私たち一人ひとりの行動なのです。

本校の学校案内の表紙には**「過去　現在　未来を繋ぐ　サンエンティフィック　グローバル　リーダーの育成」**と記されています。生徒の皆さんは、現在に生きていますが、当然、昨日までの過去の延長線上で生活しています。本校も 1928 年に「鎌倉町立鎌倉実科学校」として創立され市立、県立の移管により幾度か校名を変え、90 余年の歴史を積み重ね、現在に至っています。この表紙に記されている「未来」とは、単に時の流れを示しているのではなく、将来実現することを願って記されています。さらに、サンエンティフィック　グローバル　リーダーのサンエンティフィックとは、科学的・論理的な思考により自ら課題設定をし、検証・探究することができ、目標の達成に導いていく人を表しています。そしてグローバル　リーダーは、地球規模の視点を持ち、複眼的・多面的思考や優れた洞察力・判断力を備え、目標達成に導いていく人を表しています。無論、両方の資質や能力を備えた人材の育成を図ることも目標としています。

「総合的な探究の時間」は、平成 31 年度より実施されています。小中学校では「総合的な学習の時間」で、地域や学校、児童・生徒の実態等に応じて、横断的・総合的な学習や児童・生徒の興味・関心等に基づく学習など創意工夫を生かした教育活動を行うものでした。高校の「総合的な探究の時間」は、探究の見方・考え方を働かせ、理数及びグローバルな課題に関わる総合的な学びをとおして、自己の在り方や・生き方を考えながら科学的かつ論理的で多角的な課題を発見及び解決する能力を育成しています。

生徒の皆さん、サンエンティフィック　グローバル　リーダーに育ってください！